



ものである、誠意を披瀝して豫算を要求せよと言つても、いつも例年の通りで判つてゐる、範を内務に採つて各省を抑へむとしても、異事業間緩急の比較は不可能事、無に對しては査定も出来まい、要求したものが勝と定まつてゐる。

半休のとき、内務省の廊下を彷徨す

るものは憲政會所屬代議士であつた、

必ず二三の田舎もの多きは十數人を引

具してゐる、其の要務は問はずとも知

れたこと、十六年度豫算編制上に於け

る運動である、緊縮政策と言ふ親の心

を知つて知らずてか、所屬地盤の爲

に奔走す、ライオン内相の前、あの嚴

しい御顔を觀て、無言、しかし有無相

通してゐる、曰く聽容れ難しと、眞に



大正十六年度豫算略内定す、内務は

矢張り緊縮一點張り、内務省始まつて

この方會て觀たことの無い豫算の要求

であると傳ふ、元藏相——今の内相、誠

意を以てする豫算要求の範を示す積り

か、好漢愛すへしとは、隣家、大藏省

の聲であつた、併し内政の慈雨に浴せ

むとする民衆は之を何と觀る。

道路改良費豫算の増額は言ふに不及

地方開發道路助勢費豫算も諸倒れと爲

る、一種の痛快、地方農村を開發する

と言つた方針は、之で零と爲つた、零

に比較するものは無い、物價の低落、

經濟界の挽回、之を口にする資格がな

い、憲政會の少壯連健在なりや。

新藏相、誠意ある豫算を手にして隨

喜の涙に咽ふか、夫れとも要求の無い

ものは吾不關焉たるか、蓋し今後の見

地盤の爲に盡すなら消極政策を捨て、
かかれ、此手に乗つて汗を拭き拭き東
上する、彼れ田舎有志こそ、其の顔が
馬鹿に觀へてならない。

金を出さないこと、夫れが善政と決
まつたものでない、否な大いに使つて、

民生の爲に其の効果を倍加すること、
夫れが善政であり爲政者の心すべきこ

と、何事も手を觸れず唯た現狀を維持
すること、之を事勿れ主義と言ふ、曾

て政友會の常套手段であつた、之を糺
彈攻撃した憲政會、今亦此故智に做ふ

政友會が之を嘲笑するのも無理は無
い。



政友會、猪野毛某の入黨に依つて、

百六十三の頭顱を得、憲政會と數に於

て相匹敵すと高唱す、代議政治——頭

數政治、多數を擁するの亦可、併し

ながら多數を維持してゐても尙倒れた

のは君等の黨、醒めよ、今は頭の數の

問題でなく頭のなかの問題である、三

黨鼎立の秋、假令憲政會と數に於て等

しきを得ても、形式政治、本黨に制せ

らるゝのは五十二議會の憲政會と同様

唯だ眞理を辿つて、民衆の嚮ふ所に從

へ來る五十三議會には、好餌、消極主

義の豫算が待つてゐるでは無いか。

主義政策一致の爲に集合した團體、

夫れは君等の組織する政黨である、會

議の決は頭數に支配されても、其の主

義政策が眞理なら、飽くまでも眞理で

を破つて成立した、エリオ内閣が亦倒

れたのも、反民生の仕業である、反民

意内閣は、洋の東西、時の古今を問は

す存續すべきでない、政友會の小壯連

餘り焦慮するな、君等の先輩が採つた

舊態を脱し、誠意以て民生の爲に盡す

確心あらば、神は君等に天下を渡すこ

とも有るであらう。



神宮競技で内務省と文部省唾み合ふ

是も醜い役人の權限争議、今更官制を

吟味する必要は無い、競技舉行場神宮

が内務の所管、體育の爲にする競技が

保健衛生、何れも内務の主管である、

横槍を入れるには遅かつた文部省、今

まで文教の上に居眠つてゐたのが間違

であつた、競技参加者が學生であらうと、職工人夫であらうと問ふ所でない、主管爭議、閑職文部には格恰の仕事であらうが相手方は劇職、閑人相手の喧嘩は野暮の骨頂、唯だ目的の爲に相競へ、夫れが神宮競技創始の根本義。

長野市の暴動、大正の御代に於ける一大不祥事、知事や警察部長に對する亂打は吾の關する所でない、唯た憂ふるものは直接行動の全國的傳染に在る。土地の繁榮、その爲に警察署の存置を希望する民衆も民衆なら、三十有餘の警察署を一時に半減した知事も知事其の是否は司直の手に依つて判明されむ、唯た事件を未然に防ぎ得なかつた地方長官、我が體を打たれて始めて其の暴動化を知る、餘り迂濶であつた、

我が身のことにして夫れ、人の事なら尙更迂濶であつたかも知れない、良牧、民官、民意に聽いて施政するに在る。

検事局、直接行動の傳染を恐れてか、記事の差止を命ず、遅かつた、今に至つて臭いものに蓋せむとす、民衆は一層疑惑に陥る、傳染を恐るゝならば之を公開して其の是否曲直を民衆に判断せしめよ、夫れが公安を維持する所以



良、復興事業、地下鐵道夫れから夫れと、君の手腕に俟つものが多い、臺灣とは大分事情が違ふ、誰か言つた、心配するなよ持病人、病氣でも東京市長の役目は勤まる世の中ぢや、の言葉を消滅さして貰ひたい。

丸山某、東京市の高級助役と爲る、其の榮進は役人羨望の的、蓋し官界の遊泳に妙を得た人、曾て政友會内閣のとき、認められて朝鮮の警務局長に拔擢され、今は反對黨、憲政會傘下の東京市に羽翼を延さむとす、普通人の克くする所でない、事務官の當世氣質と評すべきか、之を見習はむとするものと、之を排せむとする官吏、夫れ何れが多きを占むるか、問ふまでもない、自分の爲には何物を犠牲に供しても可

東京市長愈就仕、思案も之れ位永ければ萬間違は無い、百鬼夜行の東京市政、確つかり改革して貰ひたい、先づ最初に手を着くべきは、市會議員と通謀して市廳内に跳梁跋扈する役人、次て制度の改革に在る、難問、道路の改

い世のなか、誰か言ふ臺灣總督府には、丸山氏と同一行動を採つた人がまだ一人残つて居ると、マサカ。



貴族院に在つて執袴子に似合はない侃諤の論を吐き世の視聽を集めた、上山滿之進クン、伊澤氏の後を襲つて、臺灣總督となる、之を貶すもの之を賞揚するもの世は區々である、唯だ惜む、數年に亘る侃諤の名論も、矢張り憲政會の手先であつたかを。

行政調査會、まだ續行されてゐるのであつた、文官任用令の改正、下級官吏待遇の改善、行政事務の整理、次から次へと世に歓迎を受くるものばかりの羅列、固より結構、併しながら任用

令を改正しても私學と官學の區別を樹て、特別任用制度を採つても、受験出身と所謂特別扱、誰もこんな現状を望むたのでない任用を如何に改正しても、此現状を打破するに非ずれば駄目、下級官吏待遇の改善、消極内閣の下に於て其の實行は何年後なるや、其の着手に先つて高等官の俸給増額、何を目的としての調査會なるや其の目的と價値を疑ふ。

唯だ賞揚すべきは事務簡捷の問題であつた、近頃各省が許可認可の事項を省略する爲に、勅令や省令を改正するのは、全く此會の強制に依るもの、其の勞を多とし感謝して置く、近時着手した各省間權限爭議の問題、之は容易に解決しまい、唯だ今から頼むで置く

のは、事務の實際に經驗を持たないものが、理論一點張りて各省の權限を決定するの危険なことである、若し主管その宜敷を得なかつたときは、民業爲に抑制され改正しないに限る、要心肝

要。
炎熱九十幾度のとき、内務部長會議バラツク建の内務省に招集さる、之で第二回目の會合、警察部長會議の向ふを張つたかと思つたら、地方制度改正に關する事務の打合せであつた、否な改正地方制度に關する夏期講習會であつた、旅費を貰つて聽講する受講生、有難いやうであるが、マズイ内務省のアイスクリームに涼味をとつて、再び長野事件を起さないやうに勉強が肝心。